

臨床医は一般検査に何を求めているのか

forward

一般検査を実施するにあたり、対象となる患者の検査目的や依頼内容の把握が難しいこと、また検体情報などが少ないといったことから、検査結果の解釈に自信をもてなかった経験がある方もいらっしゃるかと思います。しかし、検査を実施するには検査依頼から結果報告までの過程を可能な限り理解していないと、思わぬピットフォールに落ちることや、安易な laboratory diagnosis に陥ることがあります。

そこで本特集では、臨床医の先生方が何を求めて検査を依頼するのかや、結果報告に何を求めているのかなどをご解説いただきます。より臨床に役立つ情報提供ができるよう、本特集をご活用いただけたら幸いです。
(編集部)

-
1. 総論— 一般検査が診断に果たす役割
 2. 臨床医が一般検査に求めること
 - 1) 腎臓内科の立場から
 - 2) 泌尿器科の立場から
 - 3) 小児科での尿検査
 - 4) 関節炎を診断する：臨床検査技師と整形外科医の協働による関節液検査のチカラ
 - 5) 脳脊髄液に何を求めるか
-